

4) 生物農薬（病害防除剤）

（１）微生物農薬による防除

イ）トリコデルマ・アトロビリデによるいもち病、ばか苗病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病の防除

（イ）商品名：エコホープ、エコホープドライ、エコホープ DJ

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数
稲	ばか苗病	200倍	浸種時～催芽前	24～48時間種子浸漬	—
	もみ枯細菌病				
	苗立枯細菌病		催芽時	24時間種子浸漬	
	いもち病				

イネ種子表面における微生物間による栄養物の取り合い（競合）によって病原菌の増殖を抑制する。

エコホープは液剤タイプ、エコホープドライはエコホープを固定化し水和剤として保存性を高めた製剤である。エコホープ DJ はエコホープドライを製剤改良した薬剤であり、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病に対して安定した防除効果が得られている。

- ・薬剤の浸種前処理は防除効果が劣る場合があるので、浸漬処理は催芽前または催芽時が望ましい。
- ・処理温度は 10℃ 以下および 30℃ 以上にならないようにする。
- ・容量比は 1 : 1 以上とする。
- ・処理後は風乾や水洗をしないで催芽する。
- ・催芽後の籾の乾燥は陰干しとし、過度の乾燥は避け、保管せず速やかに播種する。
- ・使用済み廃液は専用廃液処理剤（商品名：イレート）を用い、適正に処理を行う。
- ・ベノミル剤、EBI 剤、チオファネートメチル剤およびオリサストロビン剤を含む薬剤との混用または播種時処理との体系使用は防除効果が損なわれる。
- ・出芽は育苗器を用いて 30℃ 程度で芽が出そろうまで加温する。
- ・エコホープは苗立枯細菌病、もみ枯細菌病に対する防除効果が劣る事例も報告されているので、使用する際には注意する。
- ・いもち病に対する効果は低い場合があるので、別途本田においていもち病に対する防除を徹底すること。

[エコホープにおける注意事項]

- ・薬剤は 10℃ 以下（凍結不可）で保存し、製造日より 3 か月以内に使用する。開封後は保存しない。

[エコホープドライ、エコホープ DJ における注意事項]

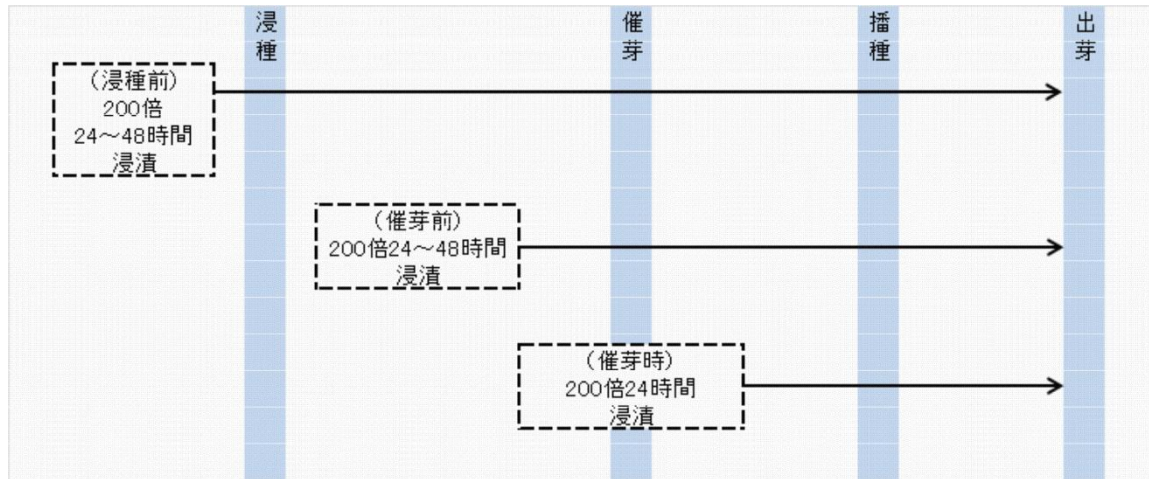
- ・乾燥製剤であり、生菌胞子の活性化まで時間を要するので、浸漬処理時間が短いと効果が劣るか不安定になるので、あらかじめ薬液を所定温度に昇温させてから種籾を浸漬するとともに、浸漬時間を守る。
- ・薬剤は直接日光の当たらない冷涼・乾燥した場所に密封して保存し、製造日より 6 か月以内に使用する。開封後は保存しない。

（ロ）体系処理可能な薬剤

土壌消毒剤		箱施用剤	
薬剤名	培土混合処理	薬剤名	播種時処理
	播種前後処理		
ダコニール	○	オリゼメート剤	○
ダコレート	×		
ベンレート	×		
タチガレン	○		
タチガレエースM	○		

○：併用可能 ×：使用不可

(ハ) 処理方法



ロ) タラロマイセス・フラバス水和剤によるばか苗病、いもち病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病、 褐条病、苗立枯病（リゾプス）の防除
(イ) 商品名：タフブロック

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数
稲	褐条病	200倍	催芽時	24時間種子浸漬	-
	ばか苗病		催芽前	24～48時間種子浸漬	
	粃枯細菌病		催芽時	24時間種子浸漬	-
	苗立枯細菌病	種子重量の 2～4%	浸種前	湿粉衣	
	いもち病				

イネ種子表面における微生物間による栄養物の取り合い（競合）によって病原菌の増殖を抑制する。

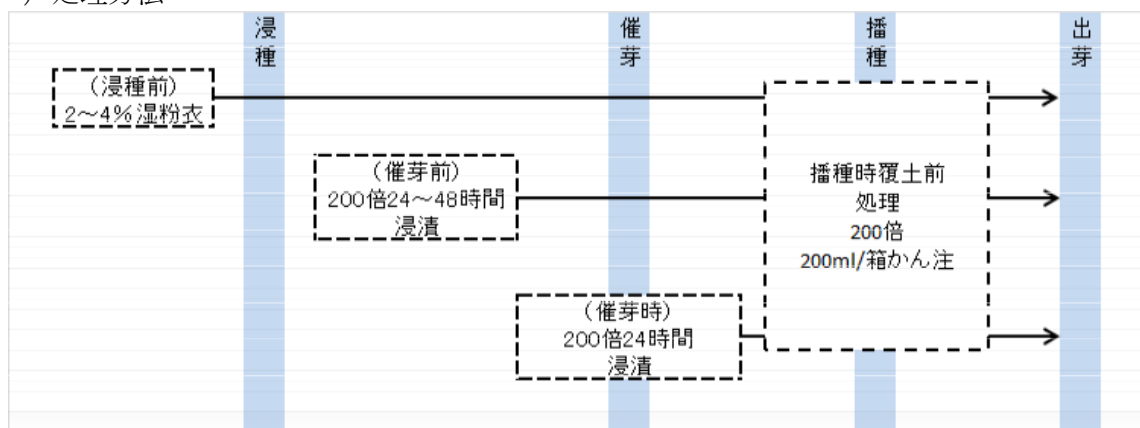
- ・薬剤の浸種前処理は防除効果が劣る場合があるので、浸漬処理は催芽時または催芽前に行う。
- ・薬液を十分に攪拌した後、種籾を投入する（容量比1：1以上）。投入後、網袋内部に薬液が浸透するようによくゆする。
- ・処理後は液を攪拌せず、種籾をゆっくり取り出す。ハトムネ催芽機の場合、循環を停止後数分間静置し、その後ゆっくり取り出す。
- ・処理後は天日による乾燥を行わない。
- ・播種後は、極端な低温に遭遇すると防除効果が低下するので、出芽器の使用等により低温にならないようにする。
- ・育苗期間中の2次感染を防ぐため、クリーンな育苗培土を使用する。
- ・ベノミル剤、EBI 剤、TPN 剤およびオリサストロビン剤を含む薬剤との混用または播種時処理との体系使用は、防除効果が損なわれる。
- ・薬剤はなるべく低温（25℃以下）で乾燥した場所に保存する。開封後は密封して保管し、できるだけ早く使い切る。

(ロ) 体系処理可能な薬剤

土壌消毒剤		箱施用剤		
薬剤名	培土混合処理	薬剤名	播種時処理	移植時処理
	播種前後処理			
ダコニール	×	オリゼメート剤	○	○
ダコレート	×	ブイゲット剤	○	○
ベンレート	×			
タチガレン	○			
タチガレーースM	○			

○：併用可能 ×：使用不可

(ハ) 処理方法



※エコホープD J、タフブロックについては温湯浸漬との体系処理でより高い効果が期待できる。